



早いもので、もう夏休みです。今年もスクールカウンセラーの中谷先生にカウンセラー通信を書いていただきました。心がほっこりしたり、時々ピリッとスパイスが効いていたり…。よろしければ本日、お子さまとお話される前に『じいやのつぶやき』を思い出してみてください。

* * * * *

例えば、皆さんが会社で上司から「もっと仕事しろ」とか「もっと出来るはずだ」と顔を見るたびに云われる、或いは自宅で家族から「もっと減量しろ」「云わないと掃除しないんだから…」と、ほぼ毎日の様に云われるとしたらどうでしょうか？ また「どうしていつもあなたは…」逆に「どうしていつも君は…」と夫婦間でやると…？ 想像できるでしょうか？

これ、お宅のお子さんにやっていませんか？

仕事や家庭に置き換えて「わが身の事」にしてみると、実は親御さんが子どもたちに何をしているのかお分かりになるのではないのでしょうか？

今回の『じいやのつぶやき』は、「ケーキの切れない非行少年たち」の著者、宮口幸治氏がご著書の中で主張しておられることを引用します。

最初のお話を続けましょう。子どもが何かを話し出してそれを親御さんが聴いているとします。話を遮ったりは論外ですが、最後まで聞いたとしてもその後で、「でもね」や「それは君にも…」と云っていませんか？「でもね」や「それは君にも」をすぐに返す時って、実はそれが云いたいが為に相手の話を聴いていません。相手の話が途切れるのを待っているだけになります。これは誰でもそうなるんです。だから「でもね」や「それは君にも…」は後日にしましょう。「このまま何も云わないでいて大丈夫だろうか？」「放っておいたら失敗するかも知れない」と親としては不安になります。自分の子どもには幸せになって欲しいし、こっちにも責任がありますから。「だから云ったでしょ」も云う必要のない言葉です。何か失敗した子どもは既に「やってしまった」事を理解しています。自分で理解できている事を今更のように人から云われるの、皆さんお好きですか？「分かってるよ！」と思いませんか？「自分がされたらいやな事を人にしたりするな」とずっとお子さんに云って来られませんでしたか？云ってる本人が出来てない。



親の不安をそのまま子どもに伝えて、良い時と悪い時があるんです。親にも我慢が必要です。子育てが終わった人間（何を隠そう、私自身の事です）が云うんですからね。お気をつけください。

<では、どうしたらいいの??は次回に続きます>